

## 特 集

## 学会設立75周年を迎えて

日本古生物学会は、本年学会設立75周年を迎えました。この度、筑波大学・赤平昌文副学長、日本地質学会・宮下純夫会長、日本自然史学会連合・西田治文代表、また海外からは中国古生物学会・周忠和副会長、韓国古生物学会会長・김정률会長を来賓としてお迎えし、75周年記念式典を滞りなく執り行うことができましたことは、この上ない喜びであります。また式典の翌日に執り行われた、カリフォルニア大学デイビス分校のG. J. Vermeij教授ならびにシカゴ大学のK. Boyce博士を交えての国際シンポジウム「The Mesozoic Revolution: a global biological transformation」では、本学会の将来を担う若手会員の研究発表を拝聴し、世界に向けた本学会の更なる飛躍を確信した次第です。

古生物学会ではこれまで、1961年1月14日に神田学会館で設立25周年記念式典を、また、1985年1月25日には設立50周年記念式典を国立科学博物館で執り行いました。今回75周年を迎えるにあたり、一昨年の評議員会で記念事業を執り行うべしとの発議があり、小笠原前会長を中心に実行委員会を立ち上げ、昨年6月からは私が委員長を引き継ぎ、2年間に渡り準備を進めて参りました。これまでにこの事業の開催に向けて様々な形でご尽力いただきました会員各位に厚く御礼申し上げます。当初、評議員会では75周年の記念事業の実施の是非について議論いたしました。100周年は25年も先のことであり、今回の式典を行わないとすると、会員の中にはこのような式典に一度も参加の機会を得られない方が出てくる可能性があることから、事業を執り行う運びとなりました。その他、75周年記念の事業として2つの計画を進めて参りました。1つは、以前、学会の編集で朝倉書店より出版した『古生物学辞典』の改訂版の出版であります。編集委員の棚部、北里、北村、真鍋会員のご尽力により、ようやく出版に漕ぎ着けました。もう1つは諸般の事情で2004年を最後に見送っておりました会員名簿の発行です。本年度内の発行を目指し、現在鋭意努力中です。

本学会の歴史を紐解くと、1935年（昭和10年）5月5日まで遡ります。現在のIPAの前身であるIPUが1933年に設立されたことを契機に、本学会は日本地質学会の部会として設立されました。同年の6月29日には、28名の参加者のもと創立総会が開催され、初代会長に矢部長克先生がなられるとともに、16名の評議員の選出および学会規則が制定されました。また、東京大学で開催された同年11月末日の第一回例会では、会員数が283名との記録が残っております。すでに75年前のことですので、設

立に携われた会員は、一昨年ご逝去されました松本達郎名誉会長を最後に、恐らくご存命の方はおられなくなつたかと思ひます。従いまして、学会を設立された先輩方からその経緯等について、直接お話をうかがうことができなくなりましたことは、誠に残念であります。しかし幸いなことに、学会の諸先輩により、機会あるごとに記録を残していただいております。それらから学会の歩んできた道を顧みることができます。例えば、報告・紀事創刊号には設立経緯についての記事が掲載されており、また学会設立25周年記念の報告としては、報告・紀事新篇41号に小林貞一先生の学会の回顧録が掲載されています。また矢部長克先生の80歳の記念事業として学会から出版した「古生物学会の回想」にも早坂一郎先生がその歴史について若干触れておられ、さらに50周年記念特別号である化石37号には、松本達郎先生、高井冬二先生の回顧録と学会史の詳細な年表が纏められています。学会の若い会員諸君には、これらに一度は目を通していただき、学会の歴史を知っていただければと思います。

これらを見てみますと、学会の歴史は必ずしも順風満帆ではなかったようです。地質学会の一部会であった当時は会員数も僅かで、財政的にも十分ではなく、そのため、論文は地質学雑誌に間借りして出版していました。本学会の論文であることを区別するために、地質学雑誌の頁、図版番号と併せて、独自の頁や図版番号が付され、論文にはタイトルの前に論文番号が付けられていました。これらは報告・紀事から誌名変更でPaleontological Researchになる183号まで続けられました。また、地質学雑誌内の古生物学会の論文を年間3から4部にまとめた合本をつくり、地質学会会員でない古生物学会会員に配布していたようです。

当学会の報告・紀事、すなわちTransactions and Proceedings of the Palaeontological Society of Japanは、世界の古生物学会の会誌で最も長い雑誌名を冠したものでした。この会誌名は、化石37号に松本達郎先生が書かれているように、本学会が地質学会の部会として発足したという経緯によるものようです。すなわち、報告・紀事は学会で発表された研究を報告し、学会の活動や会務を記事として載せることを目的としておりました。従いまして、報告・紀事への論文発表は、学会での発表が義務づけられていました。しかし、とくに戦後の混乱期には、年会と年3回の例会への出席も大変であったようで、今ではあり得ない事ですが、発表は代理人による代読がかなりありました。私が入会した1976年頃でも、時折学

会で代読があったことを記憶しております。1951年に報告・紀事が独立の出版物となり、さらに1958年には古生物学会を独立の学会とすることが地質学会総会で承認され、それを契機に、特別号と和文誌「化石」の出版が始まりました。この頃に現在の本学会の形ができあがったと言えます。1961年の設立25周年にはClassical Monographとタイプ標本カタログを出版するなど、この時期の本学会の先輩方のご努力と情熱には、改めて敬服する次第です。

現在、日本古生物学会は会員数がおおよそ1,100名に達し、毎回300名の会員が集まる年2回の年会・例会では、多岐にわたる研究発表が行われています。また、本学会のPaleontological Research誌も一昨年にはISI登録誌とな

り、世界の主要な学会の会誌と肩を並べるまでになりつつあります。私たちにはこの75年の歩みを振り返り、先輩たちが築きあげ残して下さいました、この誇りある本学会をさらに発展させる責務があります。その為にも、会員の皆様には、なお一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

簡単ではございますが、ご挨拶と代えさせていただきます。

2010年6月21日

日本古生物学会  
会長 加瀬友喜

